（別記様式第１２号）（第３の８関係）

（松本地域）

令和６年度　地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	近代遺産とデジタルを活用した新たな観光事業
事業主体 （連絡先）	筑北村 電話：0263-66-2313（直通）
事業区分	（5）中部山岳エリアにおける広域的な観光振興
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	6,650,598 円（うち支援金：4,582,000 円）

事 業 内 容

・旧国鉄廃線敷き整備事業（JR 連携/共催）
・旧国鉄廃線敷き活用事業（JR 連携/共催）
　中学生ウォーキングイベント
　JR 駅からハイキング
・村キャラクターグッズ製作
　着ぐるみ/ぬいぐるみ/缶バッチ/ペーパークラフト/
　ラベル印刷/ご当地キャラクター年賀状お返事企画/
・カプセルトイの製作
・AR プロモーションツールを活用した観光案内

（活動写真）

【イベントの様子】

事 業 効 果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

①新たな観光資源の発掘を目標に掲げていた旧国鉄廃線敷き整備・活用事業において、話題性もありメディアに取り上げられる機会が増え（テレビ 7 件、新聞 6 件）ニーズもあり、十分な可能性を見出すことができた。JR の利用増進においては、駅からハイキングにおいて、1 日の参加人数で過去最高を記録した。（平均 20 名ほどのところ、74 名）（全体では 145 名）
②誕生したばかりの村キャラクターを立体的・視覚的なグッズにすることで、村民がキャラクターに愛着を持ち、身に着けることで、村外にも PR できた。

【目標・ねらい】

① 新たな観光地点の発掘と JR３駅の利用増進
② 村 PR 及び知名度の向上

※自己評価【B】

【理由】
目標に届かなかったコンテンツもあるが、全体を通して、事業の継続や発展に視野が広がり、次年度に繋がる課題やニーズが見えた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今年度から旧国鉄廃線敷きの整備を段階的に行ったが、安全確保の観点から安曇野市と協議し、実施できなかったコンテンツもあり、利用者の安全確保を鑑み、今後廃線敷きトンネル内に照明を設置することを検討している。最終的には安曇野市側と繋げて、訪問者が安全に散策できるようにすることが目標であるが、案内人の育成や、費用対効果の検討など、課題もあるため、慎重に検討していく。村キャラクターのグッズについては、これからも活用し、さらなる PR と知名度の向上を目指していく。AR プロモーションツールにおいては今後も利用準備を進めていく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」：予定を上回る効果が得られた　「B」：予定していた効果が得られた
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある